

四国電力（株）の電力需要ピーク時の他の事業者からの受電について

平成 27 年 10 月 7 日に開催されました商工農林水産委員会において、ご質問のありました標記について、四国電力（株）に確認しました内容は下記のとおりです。

よろしくお願ひいたします。

記

Q. 電力需要ピーク時には他の事業者からどの程度受電しているのか。

A. 以下の表のとおりです。

夏季・冬季の電力需給状況（四国電力）

（単位：万kW）

	H24 夏季	H24 冬季	H25 夏季	H25 冬季	H26 夏季	H26 冬季	H27 夏季
供給力	603	524	577	529	572	535	553
うち、他の事業者 からの受電量※	<u>162</u>	<u>156</u>	<u>164</u>	<u>156</u>	<u>163</u>	<u>132</u>	<u>189</u>
最大需要	526	477	549	487	526	503	511
予備力	77	47	27	41	46	32	42

（最大電力発生時の実績）

※「他の事業者からの受電量」は、最大電力発生時に当社以外の電源（電源開発等）から受電している量（火力・水力・新エネ）を記載しています。

Q. 他の事業者からの受電にはまだ余裕があり、そこから買えば需要ピーク時は乗り切れるのではないか。

A. 今夏の電力需給見通しでは、当社を含む中西日本地域全体では、予備率が 4.5% と非常に厳しい状況でした。

◇2015 年度夏季の電力需給見通し（H27.6.10 資源エネルギー庁公表資料より抜粋）

〇8月												
(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
①最大電力需要	7,007	472	1,445	5,090	9,253	2,597	2,791	545	1,128	549	1,643	16,260
②供給力	7,687	513	1,524	5,650	9,672	2,716	2,875	570	1,207	611	1,693	17,359
②供給-①需要 (予備率)	680 (9.7%)	41 (8.7%)	79 (5.5%)	560 (11.0%)	419 (4.5%)	119 (4.6%)	84 (3.0%※3)	25 (4.6%)	79 (7.0%)	62 (11.2%)	50 (3.0%)	1,099 (6.8%)

※3 関西電力において、融通を行わない場合の予備率は▲4.2%となる。

予備率 4.5%（予備力 419 万 kW）については、安定供給に最低限必要な予備率である 3% をなんとか上回っているものの、百万 kW 級の大規模電源がトラブル停止する場合は、3% ぎりぎりとなる水準であり、決して余裕があるとは言えない状況です。

実際に、本年 5 月、6 月に発生した関西電力姫路第二火力発電所（LNG）のトラブル停止により、今夏最大で 94 万 kW の供給力が失われており、関西電力は、他電力の融通受電を実施することにより、予備力 3% をなんとか確保できた状況です。

このように、他電力も決して供給力に余裕があるとは言えない状況が続いており、今夏、九州電力川内 1 号機が再稼働しましたが、状況は大きくは変わっておりません。

当社については、電源開発をはじめとする発電事業者からの電力購入を確保するとともに、節電の取り組みや、老朽化した火力発電所の運転再開（阿南 2 号）、火力発電所の定期検査の実施時期の特例的な繰り延べ等により、今夏について、一定の供給力を確保することができました。

しかしながら、老朽化した火力発電所を酷使する状況が続いているため、原子力発電所を再稼働することにより、供給力を回復し、繰り延べしている火力発電所のメンテナンスを行うなど、安定供給の状態に戻す必要があると考えております。

需要ピーク時への対応策として、電源開発などの発電事業者等から追加的に受電することについては、例えば、四国内には、大規模電源として、電源開発の橘湾火力発電所（210 万 kW）があります。同発電所については、複数の電力会社が契約し、受電しているものであり、各社が既に供給力に織り込んでいることから、当社が追加的に同発電所から受電することはできません。

このように、発電事業者等からの電力購入については、各社共に、既に供給力として確保（契約）済であり、余力は残っておらず、購入量の上積みは難しい状況です。